

2025 年 6 月 自然を語る会 報告

第 17 章「べつの道」

2025 年 6 月 21 日（土） 10：00～12：00

飯田橋ボランティアセンター + zoom

参加者 16 名

担当：浅井千晶

今回が『沈黙の春』読書会の最終回で、最終章である 17 章「べつの道」を読んだ。17 章のタイトル「べつの道」は英語では「The Other Road」で、2024 年に刊行された渡辺政隆訳では「もう一方の道」と翻訳されている。

最終章は、「私たちは、いまや分れ道にいる。だが、ロバート・フロストの有名な詩とは違って、どちらの道を選ぶべきか、いまさら迷うまでもない」というカーソンの提言から始まる。高速で進む禍いと破滅への道ではなく、あまり人の行かないもう一つの道を選ぶことがこの地球の安全を守れる、最後の唯一のチャンスなのだ。引用されているフロストの詩「行かなかった道（The Road Not Taken）」を紹介し、その後、本章の主な内容である「生物学的コントロール」について参加者全員で知識を共有した。

カーソンは、放射線照射による雄の不妊化法や天敵の利用など、化学薬品を使った防除方法にかわる生物学的コントロールの可能性について様々な事例を挙げているが、たいせつなことは生命と環境を守るために新たな可能性を探求することだろう。読書会では、生物学的コントロールが行われた日本各地の事例の紹介はもちろん、アメリカと日本の虫に対する感性や経験の差異、生き物が主人公の E. B. ホワイトの絵本『シャーロットのおくりもの』まで話がひろがり、『沈黙の春』の最終章を読み終えた。

（浅井記）